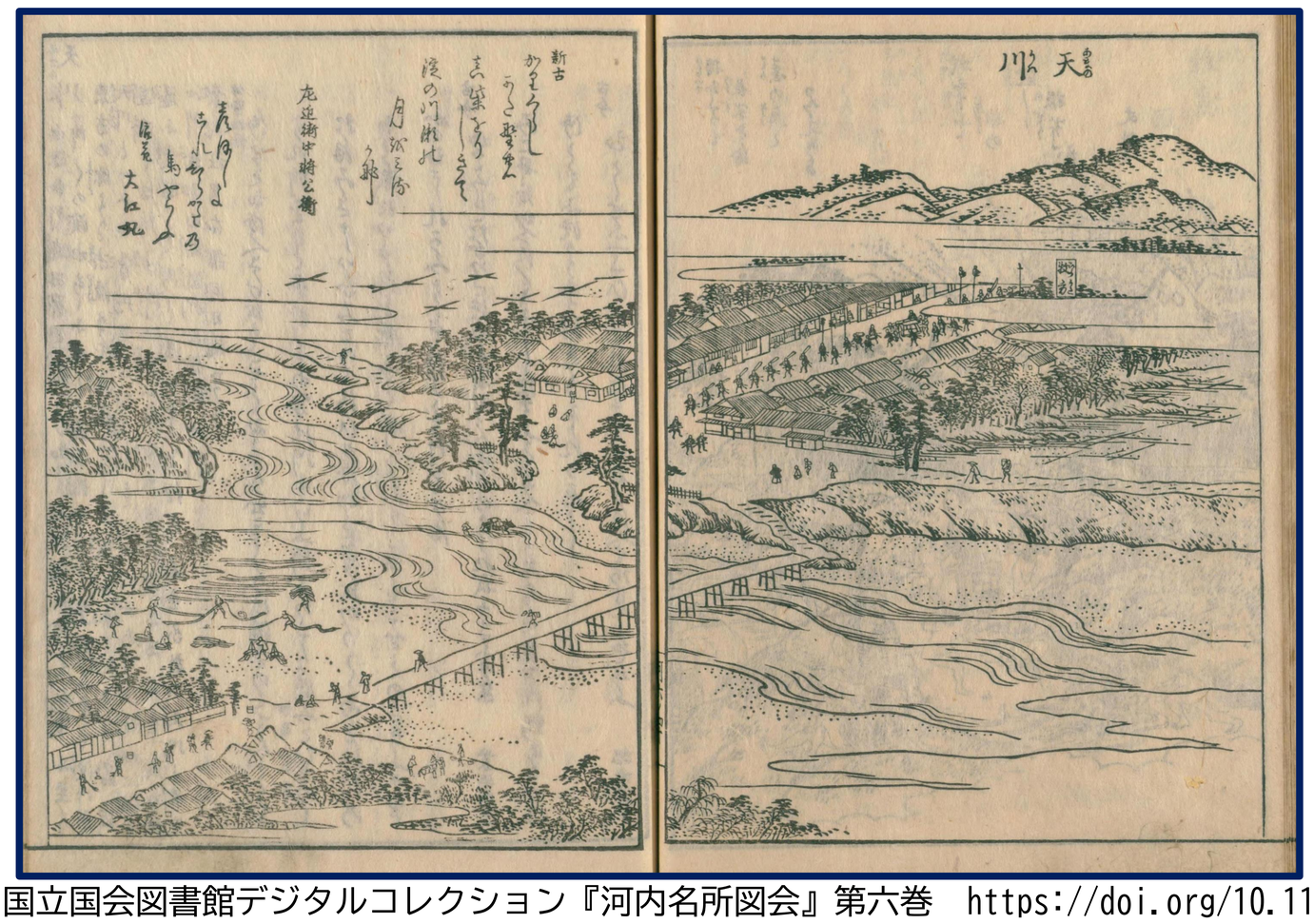
# 「天の川」の和歌を詠もう

- 江戸時代のガイドブック（名所図会）『河内名所図会』「天川」



国立国会図書館デジタルコレクション『河内名所図会』第六巻　https://doi.org/10.11501/2563476

『河内名所図会』は、享和元年（1801）、秋里籬島によって記された名所案内（ガイドブック）です。挿絵を担当した丹羽桃渓は、大坂の浮世絵師で、狂歌を多く詠んだ人物としても知られています。

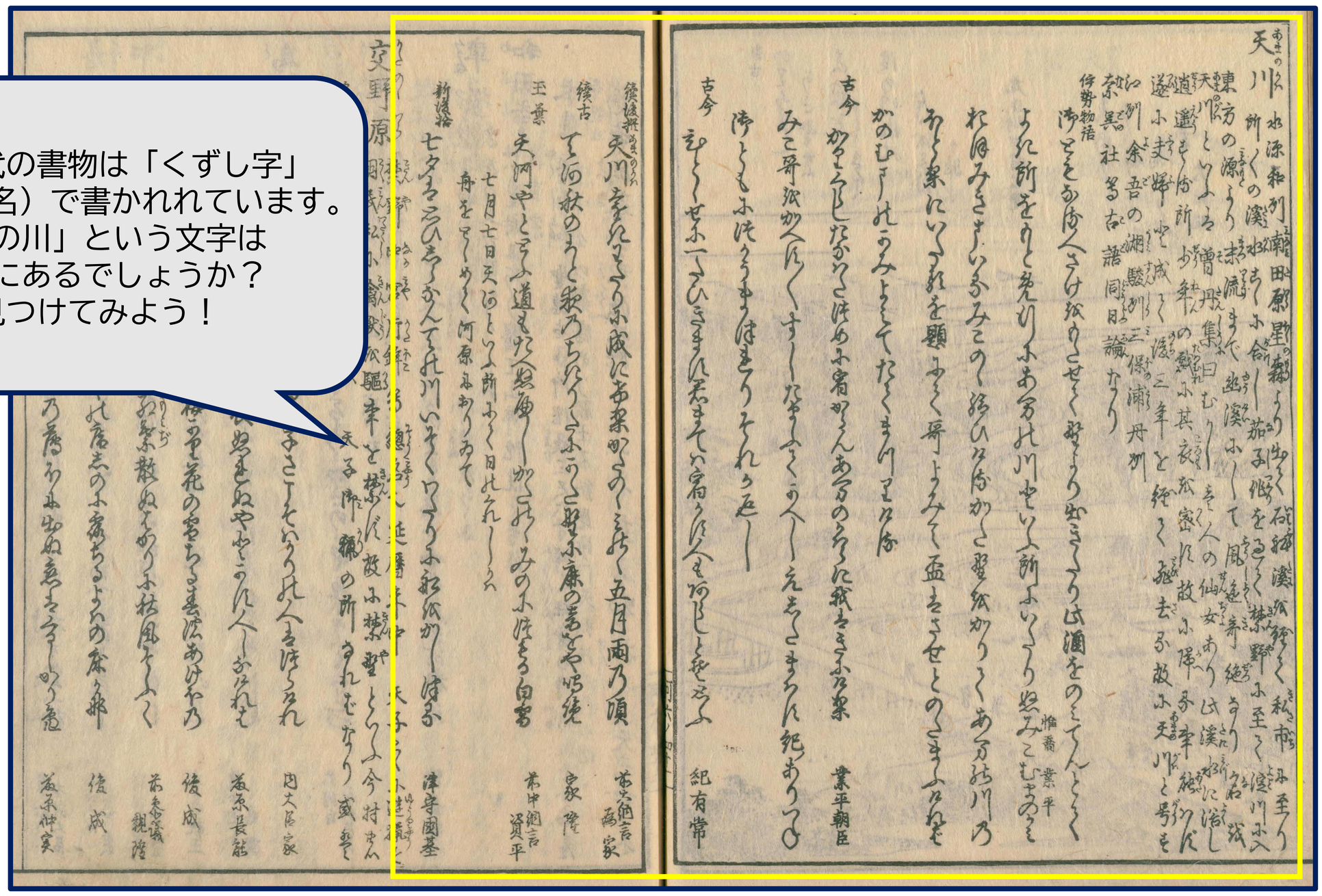
「天川」は、鎌倉時代成立『新古今和歌集』（巻六・冬）所収の和歌

「かりくらし　かたのの真柴
　をりしきて
　淀の川瀬の　月をみるかな」
（左近衛中将公衡（藤原公衡））

という和歌とともに紹介されています。「交野での鷹狩のこころ」を詠んだ和歌です。

- 「天の川」を見つけてみよう！

江戸時代のガイドブック『河内名所図会』には「天の川」を詠んだ有名な和歌が掲載されています。
皆さんが知っている和歌はありますか？　また、皆さんなら、どのような和歌を詠みますか？



江戸時代の書物は「くずし字」（変体仮名）で書かれれています。
「天の川」という文字は
どこにあるでしょうか？
見つけてみよう！

『伊勢物語』御ともなる人、さけをもたせて野より出きたり。此酒をのみてんとて、よき所をもとめ行に、あまの川といふ所にいたりぬ。みこ（惟喬）、むかのかみ（業平）、おほみきまいる。みこのの給ひける、かた野をかりてあまの川のほとりにいたるを題にて、歌よみて盃はさせと、のたまふければ、かのむかのかみ、よみてたてまつりける。

『古今』　かりくらし　たなはたつめに　宿からん　あまのかはらに　我はきにけり　　業平朝臣

みこ、歌をかへすかへす　すしたまふて、かへしえしたまはず。紀ノありつね、御ともにつかうまつれり、それが返し、

『古今』　ひととせに　一たびきます　君まてば　宿かす人も　あらじとぞ思ふ　　紀有常

『続後撰』　天川　遠きわたりに　成にけり　かたのみのの　五月雨の頃　　前大納言・為家
『続古』　天河　秋のひと夜の　ちぎりだに　かた野に鹿の　音をや鳴らん　　家隆
『玉葉』　天河　やととふ道も　たへぬべし　かたのみのに　つもる白雪　　前中納言・資平
『新後撰』　七夕は　思ひしらなん　天の川　いそぐわたりに　船をかしつる　　津守国基